文字列アルゴリズム

北海道大学 理学部 化学科 B3 TAB

参考資料

- snuke さんのブログ
 文字列の頭いい感じの線型アルゴリズムたち
 (MP, KMP, Manacher, Z-algorithm)
- Competitive Programmer's Handbook
 海外版の蟻本的なもの (Z-algorithm)
- Codeforces の記事 (Z-algorithm)
- @kyuridenamida さんのスライド (KMP, BM, など)
- potatosensei さんのブログ (KMP)

今回の発表内容

- Manacher's algorithm
- Z-algorithm
- MP 法
- KMP 法

今回使う記号

• |S|:文字列 S の長さ

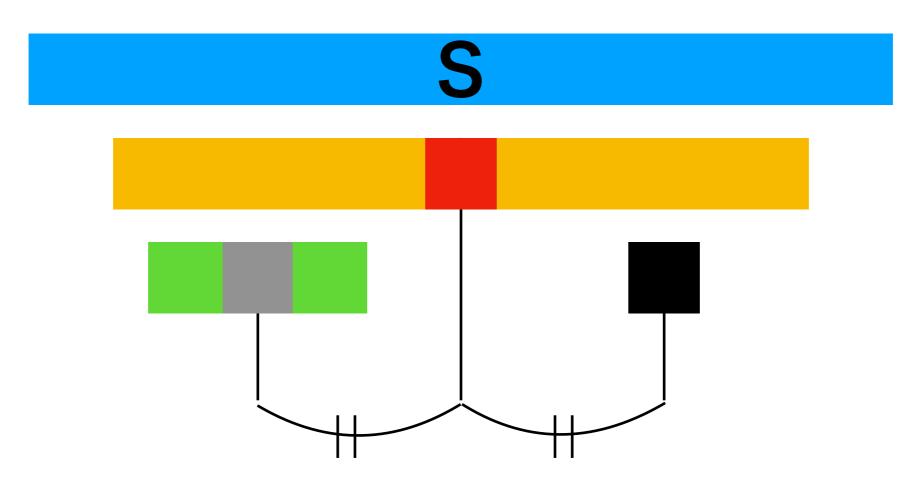
• S[i]:文字列 S の i 文字目 (0-indexed とする)

S[i, j]: 文字列 S の i 文字目から j 文字目までを取り出した文字列

文字列 S に対して, S[i] を中心とした回文(奇数長)の半径の最大値を各 i に対して求めるアルゴリズム。 全体で O(|S|)

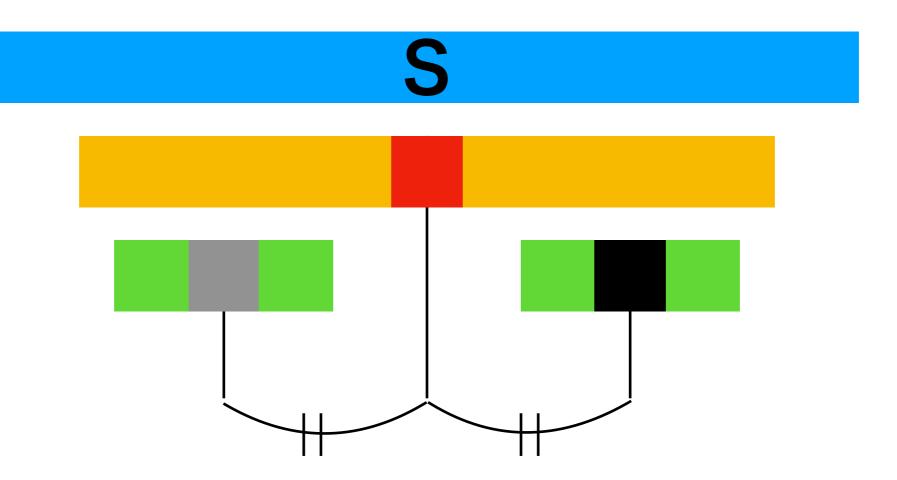
回文の半径: (回文の長さ + 1) / 2 例えば, "TABAT" の半径は 3

S	а	b	а	а	а	b	а	b	а
R	1	2	1	4	1	2	3	2	1



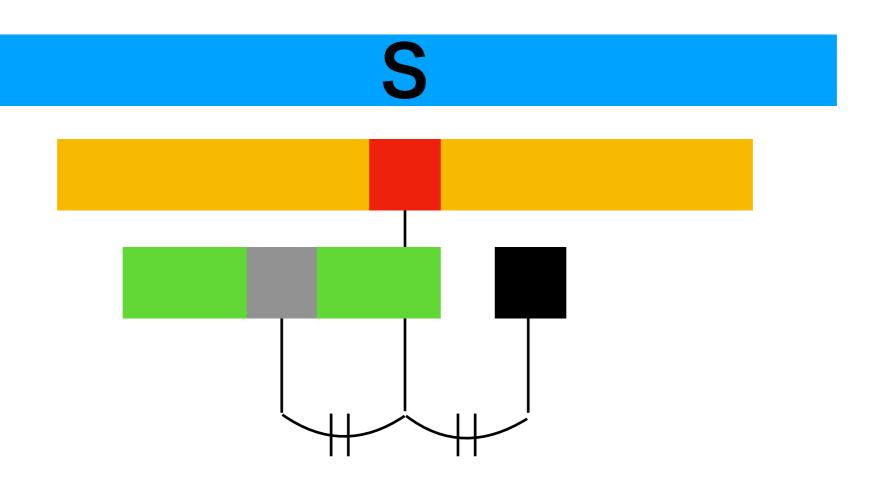
赤、グレーを中心とした回文の半径はすでにわかっている

黒を中心とした回文の半径が知りたい →グレーを中心とした時の値を見れば良い 黒を中心とした時と、グレーを中心とした時は同じ値

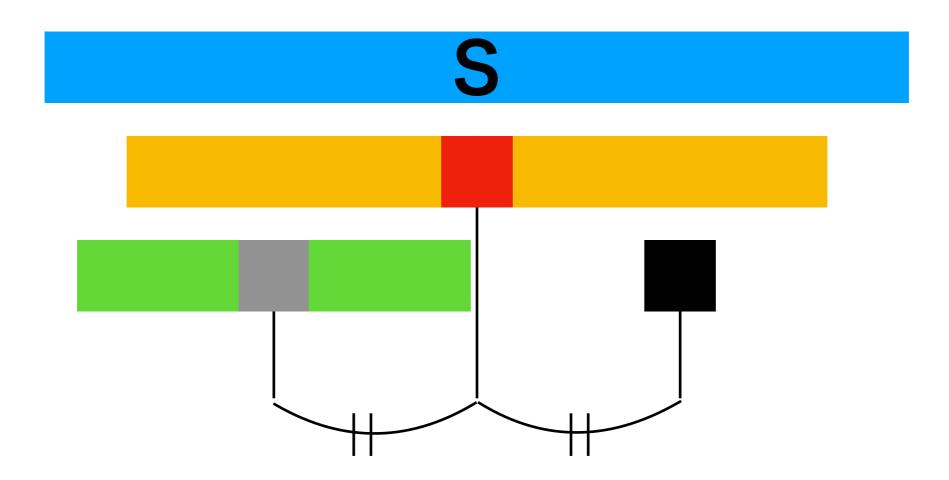


赤、グレーを中心とした回文の半径はすでにわかっている

黒を中心とした回文の半径が知りたい →グレーを中心とした時の値を見れば良い 黒を中心とした時と、グレーを中心とした時は同じ値

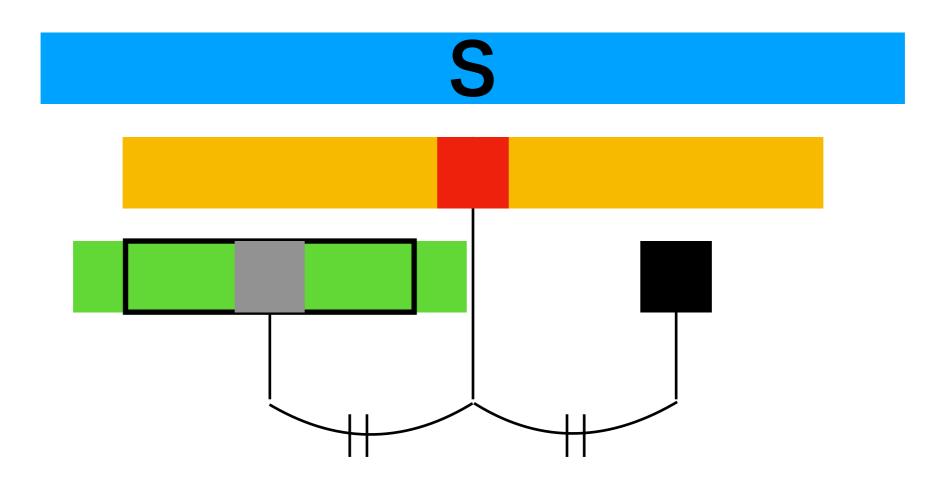


回文が中心をまたいでいても同じことが言える。



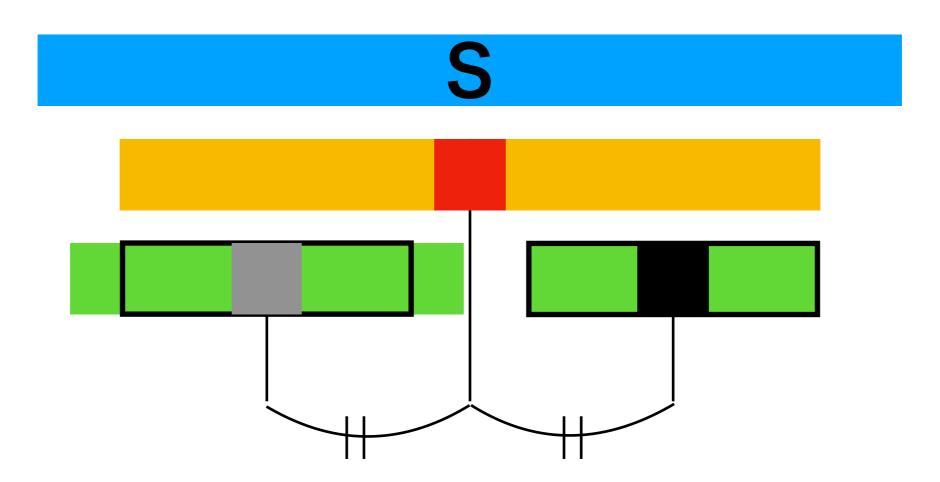
緑の回文が黄色の回文の外に出ている場合 黒を中心とした回文の半径の最大値と、緑の回文の半径が同じとは限らない

→今わかっている範囲で伸ばせるところまでは伸ばして、残りは愚直に求める



緑の回文が黄色の回文の外に出ている場合 黒を中心とした回文の半径の最大値と、緑の回文の半径が同じとは限らない

→今わかっている範囲で伸ばせるところまでは伸ばして、残りは愚直に求める



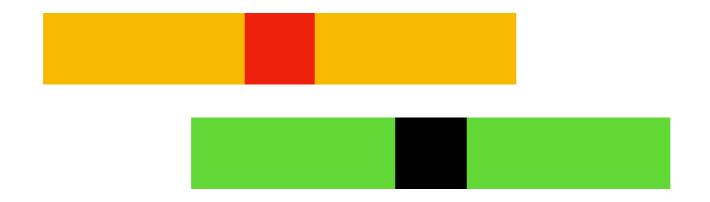
緑の回文が黄色の回文の外に出ている場合 黒を中心とした回文の半径の最大値と、緑の回文の半径が同じとは限らない

→今わかっている範囲で伸ばせるところまでは伸ばして、残りは愚直に求める

左側から順番に半径の最大値を求めていくことを考える。

赤を中心とした回文は何なのか?

→すでに見つけた回文の中で、右側が最も右にあるものを 覚えておけば良い。



上のようになったら黒を中心とした回文をベースとする。

ソースコード

```
vector<int> Manacher(string S){
 int c = 0, n = S.length();
vector<int> R(n,1);
 for(int i = 0; i < n; ++i){
   int l = c - (i - c);
   if(i + R[l] < c + R[c]){
    R[i] = R[l];
   }else{
     int j = c + R[c] - i;
    while(i - j >= 0 and i + j < n and S[i-j] == S[i+j]) ++j;
    R[i] = j;
     c = i;
 return R;
```

計算量の解析

while 文中の ++j が何回実行されるかを考える j = R[c] + c - i より i + j = R[c] + c while 文を抜けた後, R[i] = j, c = i としているので, i + j = R[c] + c が成り立つ i + j < |S| なので, ++j された回数は全体で O(|S|) である 従って for 文と合わせて全体でも O(|S|) である

偶数長の回文は検出できないの?

偶数長の回文は検出できないの?

→できます!

偶数長の回文は検出できないの?

→できます!

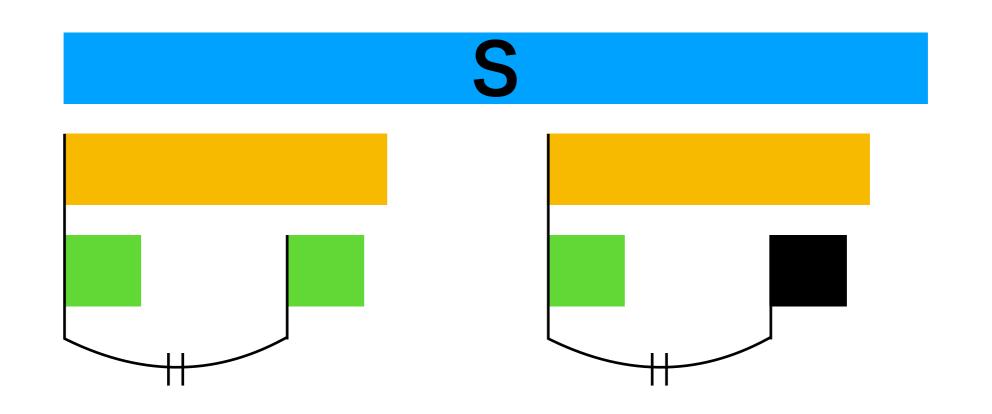
S = "aabbaa" の時、 S' = "\$a\$a\$b\$b\$a\$a\$" として S' に対して Manacher's algorithm を適用すればよい

Z-algorithm

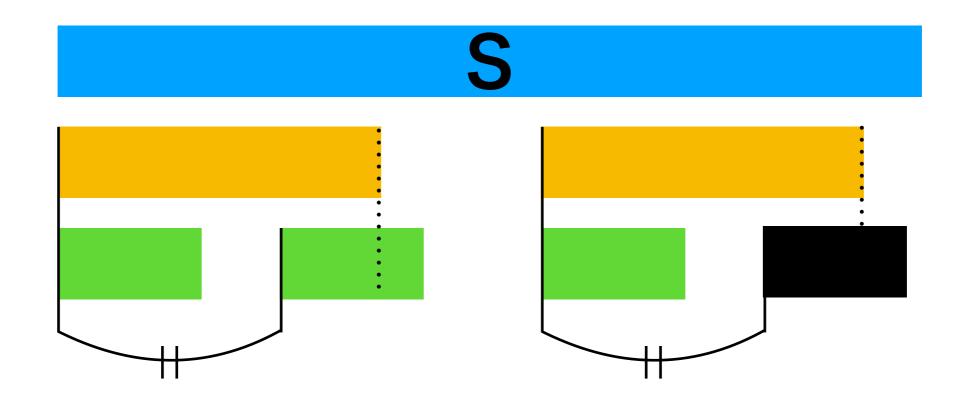
文字列 S が与えられた時、各 i に対して、S と S[i,|S|-1] の最長共通接頭辞の長さを O(|S|) で求めるアルゴリズム

S = "aabaabaaa" と S[3,8] = "aabaaa" の最長共通接頭辞は "aabaa"

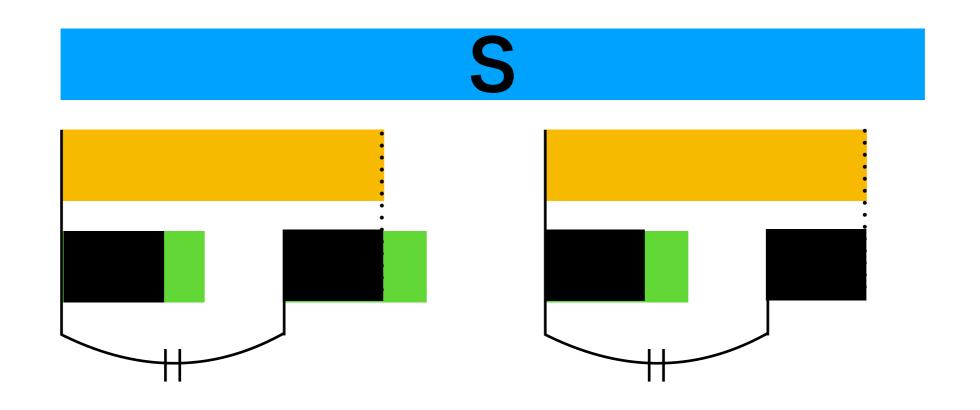
従って A[3] = |"aabaa"| = 5



黄色同士が同じ文字列の時、黒と緑は同じ文字列



緑の文字列が黄色の文字列から飛び出している場合、緑と黒が同じとは言えない。 →黄色の文字列に収まっている部分については同じであると言える。 飛び出している部分は愚直に比較する。



緑の文字列が黄色の文字列から飛び出している場合、緑と黒が同じとは言えない。 →黄色の文字列に収まっている部分については同じであると言える。 飛び出している部分は愚直に比較する。

ソースコード

```
vector<int> Z_algorithm(string S){
 int c = 0, n = S.length();
vector<int> Z(n,0);
 for(int i = 1; i < n; ++i){
  int l = i - c;
   if(i + Z[l] < c + Z[c]){
    Z[i] = Z[l];
  }else{
     int j = max(0, c + Z[c] - i);
    while(i + j < n && S[j] == S[i+j]) ++j;
    Z[i] = j;
     c = i;
Z[0] = n;
 return Z;
```

求めた配列は結局何に使えるの?

求めた配列は結局何に使えるの?

→例えば文字列検索に使えます

求めた配列は結局何に使えるの?

→例えば文字列検索に使えます

文字列検索:テキスト文字列から、パターン文字列を探すこと

求めた配列は結局何に使えるの?

→例えば文字列検索に使えます

文字列検索:テキスト文字列から、パターン文字列を探すこと

どうやるの?

求めた配列は結局何に使えるの?

→例えば文字列検索に使えます

文字列検索:テキスト文字列から、パターン文字列を探すこと

どうやるの?

テキスト文字列を S パターン文字列を T とすると、T + '#' + S に対して Z-algorithm で配列を求めればよい。 A[i] = |T| となっている i を見つければ良い。

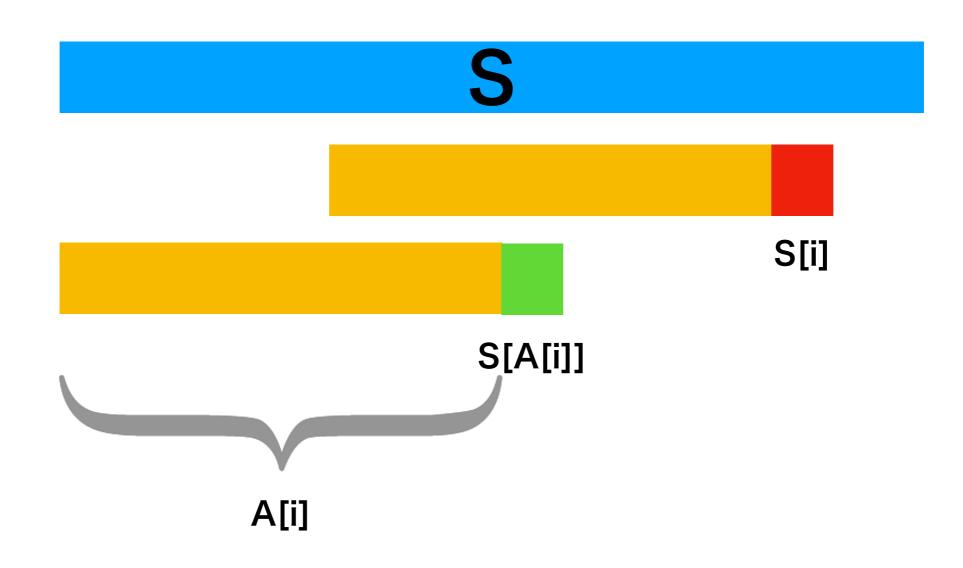
MP 法

A[i] := S[0,i-1] の接頭辞と接尾辞が最大何文字一致しているか (ただし、|S[0,i-1]| 未満のもののみを考える) (この配列 A は最長ボーダーというらしい)

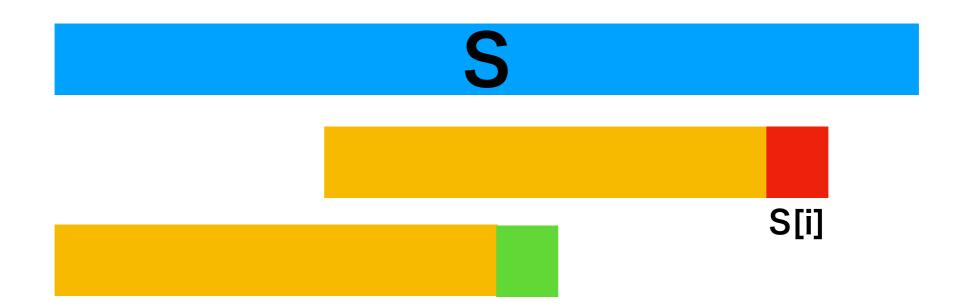
最長ボーダー A を O(|S|) で求めるアルゴリズム。



S[0, 5] = aabaabS[0,2] = aab = S[3,5]従って、 A[6] = 3



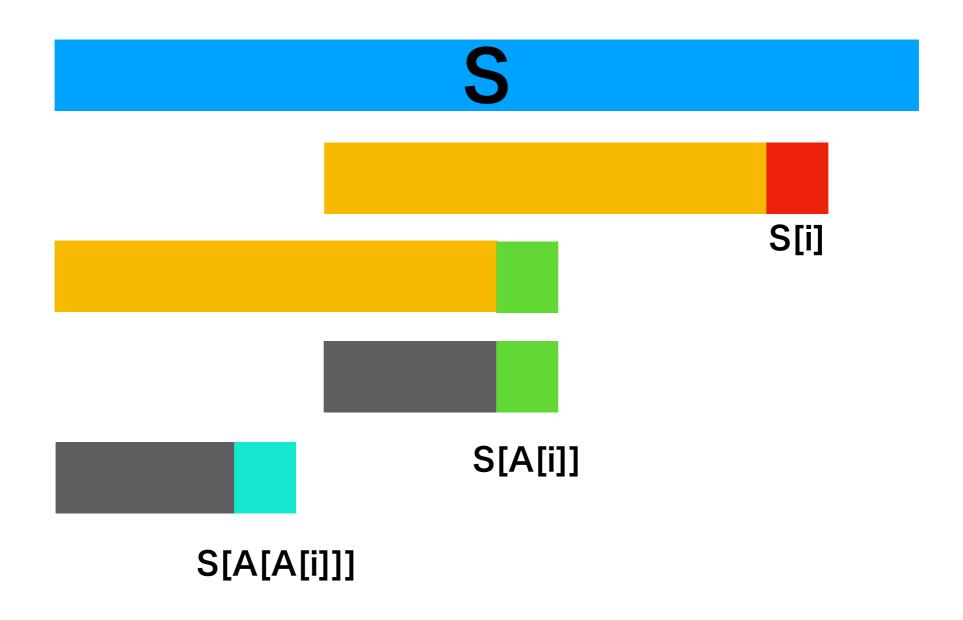
赤と緑が一致している場合 →A[i+1] = A[i] + 1 とすれば良い



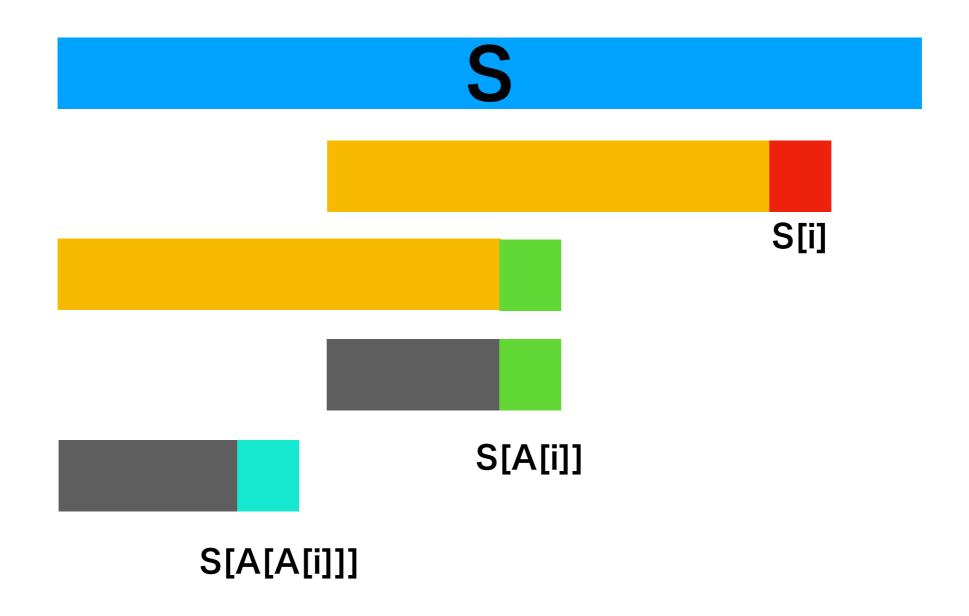
S[A[i]]

S[A[A[i]]]

赤と緑が違う場合



赤と緑が違う場合



赤と緑が違う場合 →赤と水色を比較する

ソースコード

```
vector<int> MP(string S){
 int l = S.length();
 vector<int> A(l+1);
 A[0] = -1;
 int j = -1;
 for(int i = 0; i < l; ++i){
  while(j >= 0 \&\& S[i] != S[j]) j = A[j];
   ++j;
  A[i+1] = j;
 return A;
```

計算量の解析

while 文が何回実行されるかを考える

while 文が実行されると, j の値は減る (-1 よりは小さくならない)

従ってjの増加量≥jの減少量≥while 文の実行回数

j が増えるのは ++j しかないので, j の増加量 = |S| 従って while 文が |S| より多く実行されることはない従って全体で O(|S|) である

MP 法

最長ボーダーって結局何に使えるの?

→最長ボーダーを使うことで解ける競プロの問題が色々ある

一般的に有名なのは文字列検索

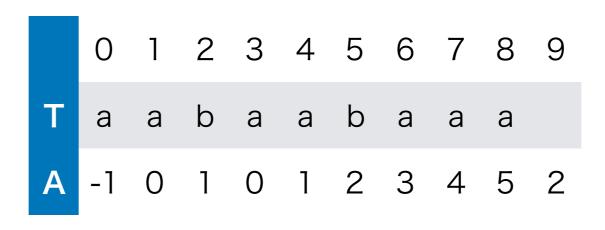
文字列の周期性の判定も行える

(http://snuke.hatenablog.com/entry/

2015/04/05/184819)

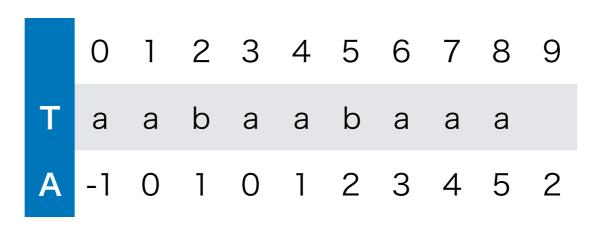
MP法による文字列検索

パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



a a a b a a b a a a a a a b a a b a a a a a a a a a a a a a a

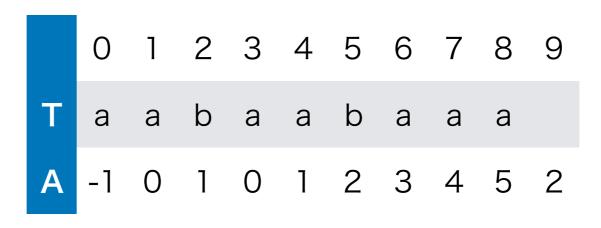
パターン文字列 T のi 文字目で不一致 → i - A[i] 文字、パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



一致

aabaabaabaa a a b a a a

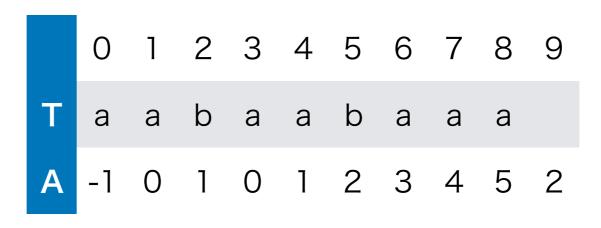
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



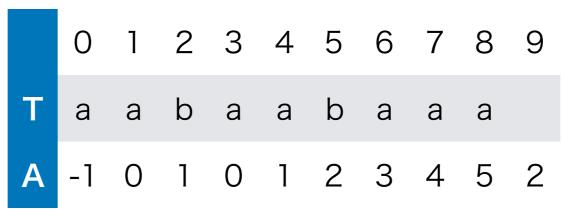
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



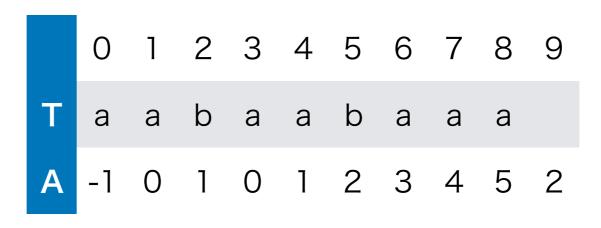
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



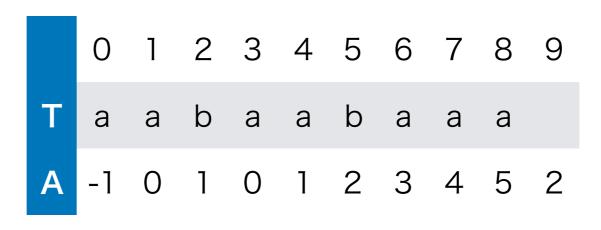
不一致 aaabaabaabaaa aabaabaaa

2 - A[2] = 1 文字ずらす

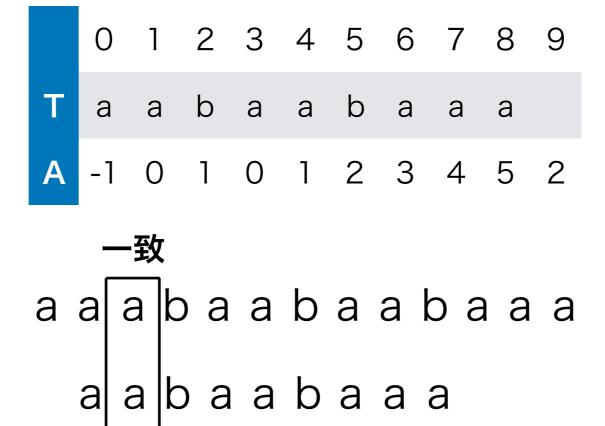
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



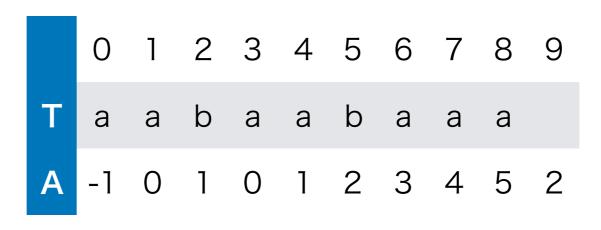
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



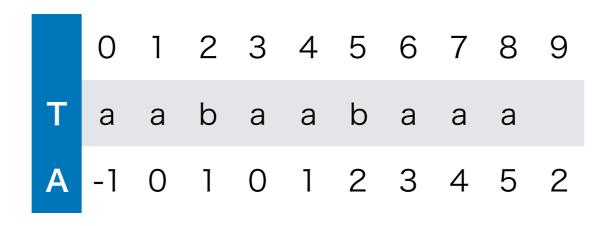
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



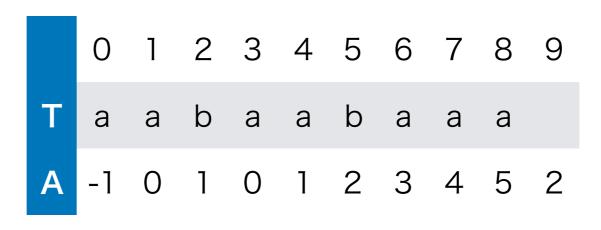
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



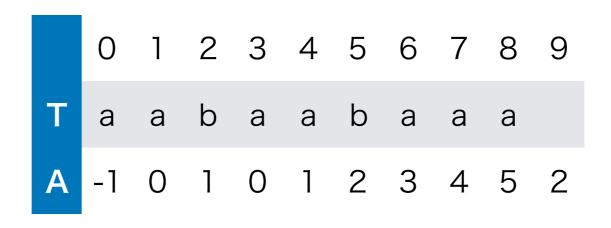
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



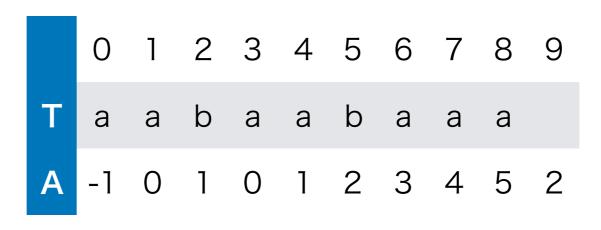
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



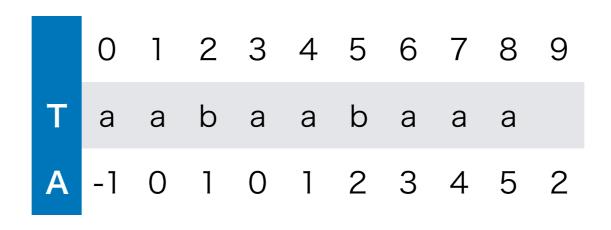
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



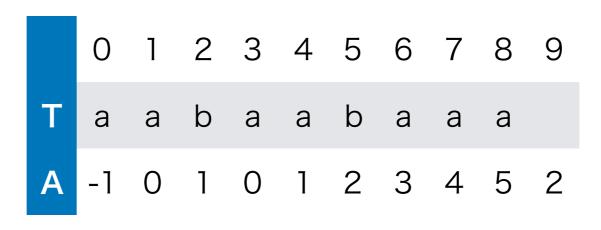
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



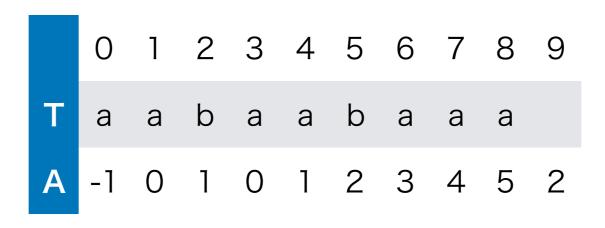
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



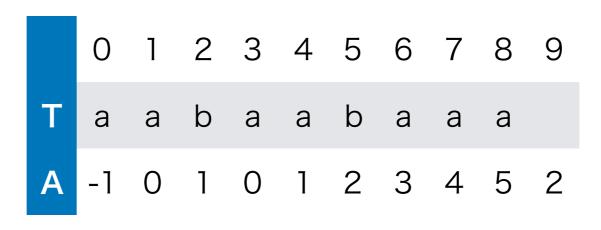
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



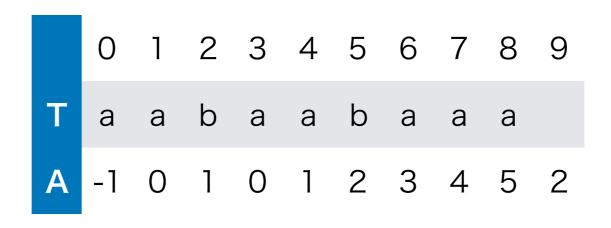
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



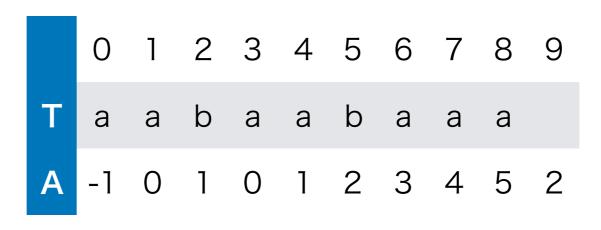
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



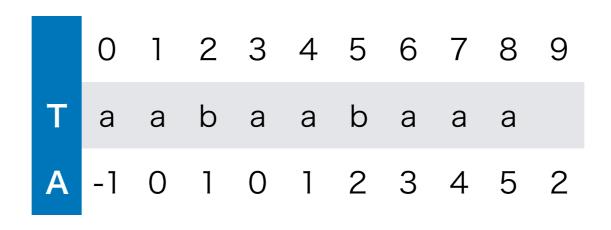
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



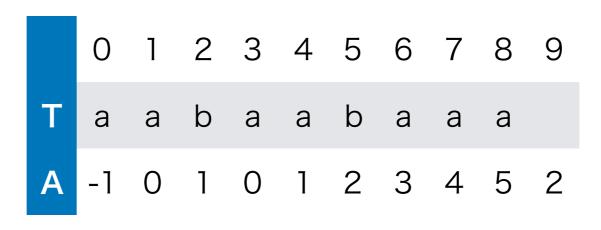
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



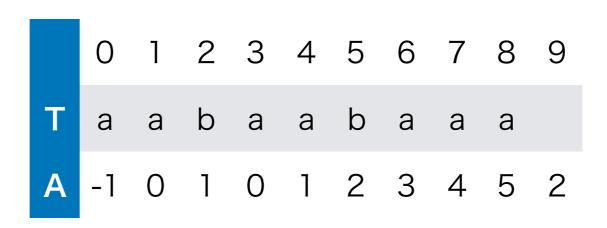
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



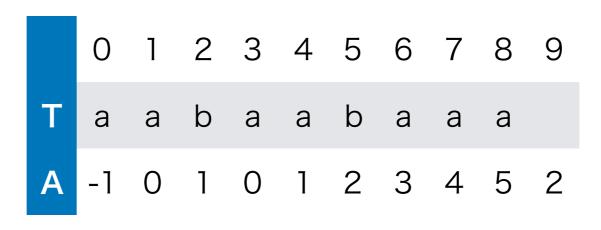
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



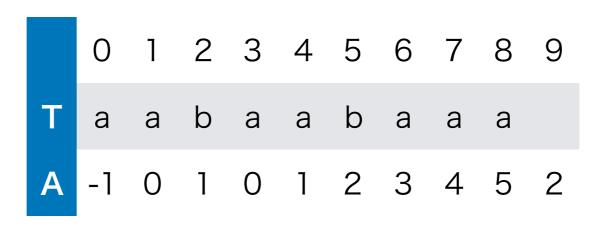
不一致 a a a b a a b a a b a a b a a b a a a

8 - A[8] = 3 文字ずらす

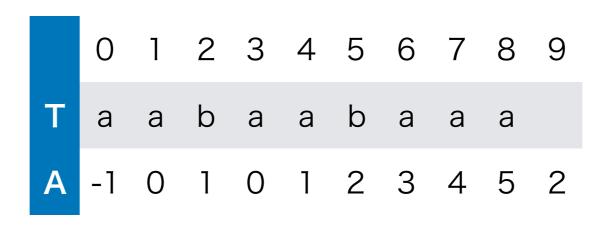
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



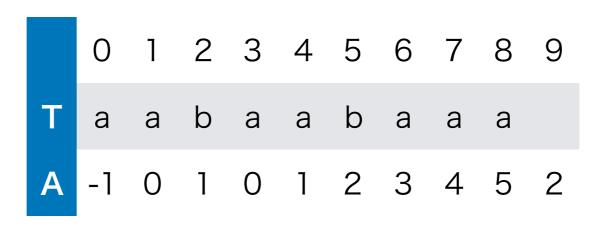
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 \rightarrow i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



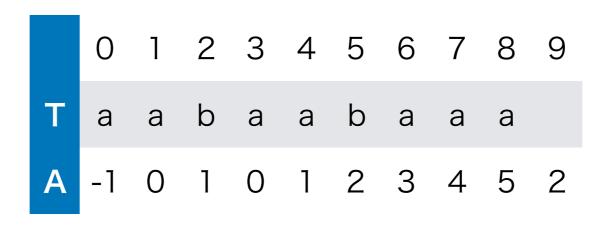
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



パターン文字列 T の i 文字目で不一致 \rightarrow i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"

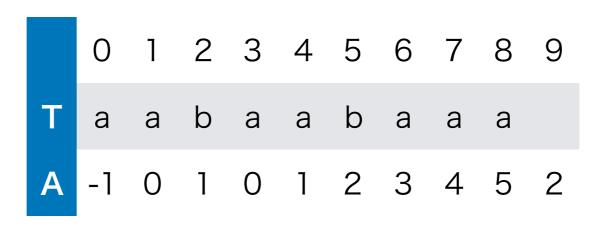


パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"

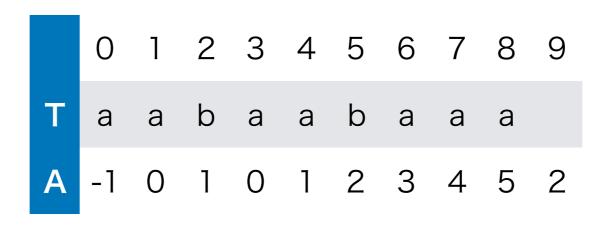


aaabaabaaa aabaabaaa

パターン文字列 T の i 文字目で不一致 \rightarrow i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"

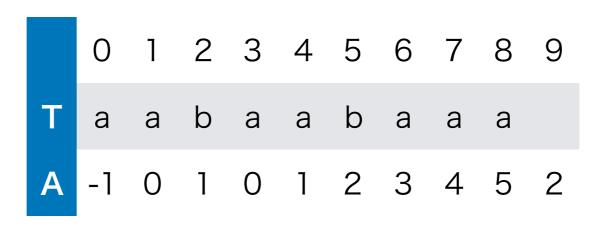


パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"

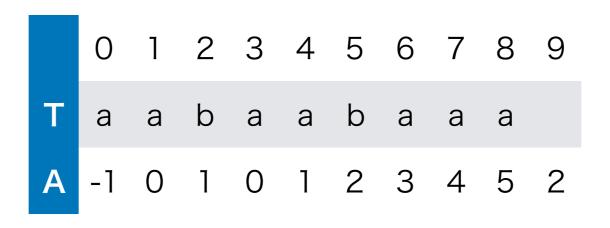


aaabaabaaa aabaabaa

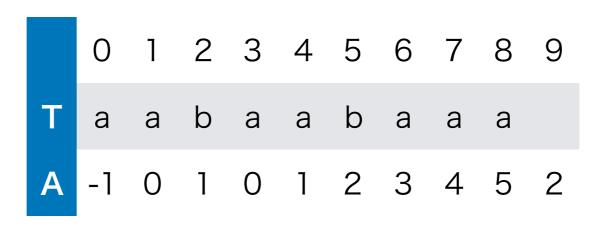
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 \rightarrow i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



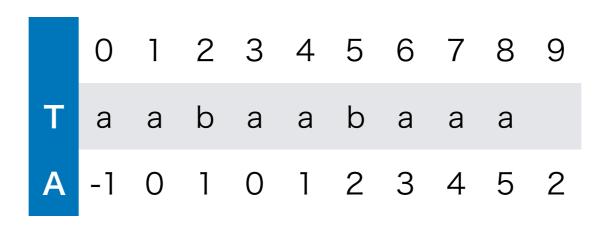
パターン文字列 T の i 文字目で不一致 → i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



パターン文字列 T の i 文字目で不一致 \rightarrow i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



パターン文字列 T の i 文字目で不一致 \rightarrow i - A[i] 文字, パターン文字列をずらす S = "aaabaabaabaabaaa", T = "aabaabaaa"



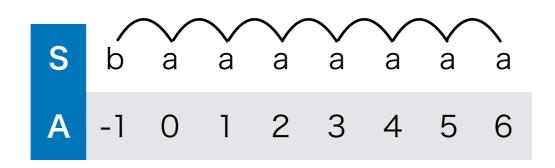
aaabaabaabaa

テキスト文字列中の見ている場所が後ろに下がることがない →全体で O(|S| + |T|)

KMP 法

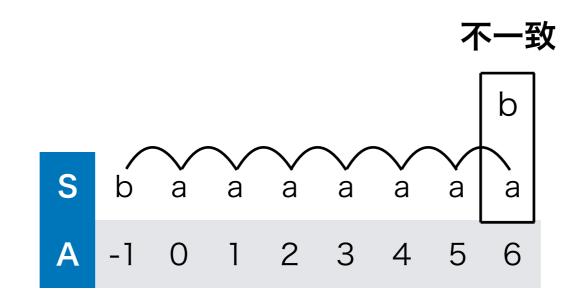
Knuth + MP で KMP MP を高速化したもの。 パターン文字列をずらす時に賢くずらす。 最悪時のオーダーは MP と変わらず O(|S| + |T|)

MPとの違い

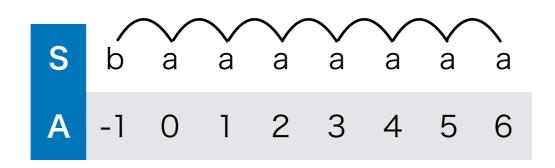


MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています

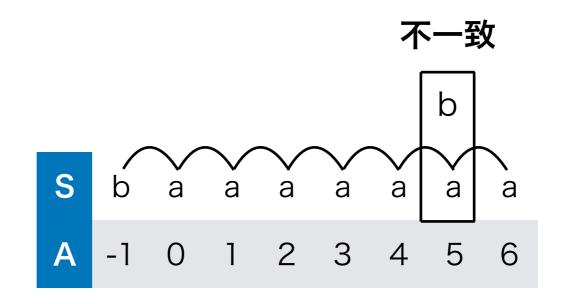
a ではないことがわかっているのに、a と比較するのは無駄 a 以外の文字が出てくるところまで、飛ばしてしまって良い 7 文字目で不一致になったら次は O 文字目を見るようにする



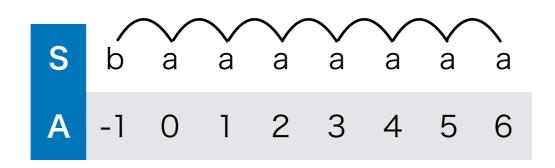
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



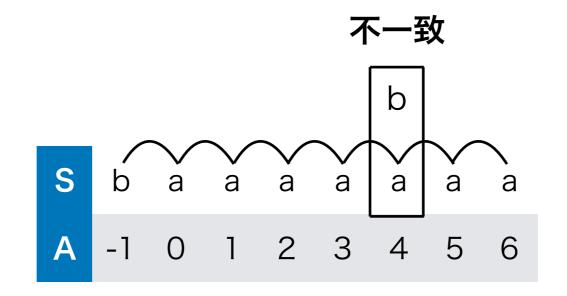
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



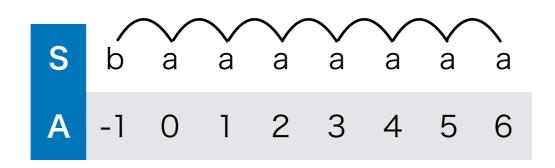
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、次に比較する場所に黒い線が伸びています



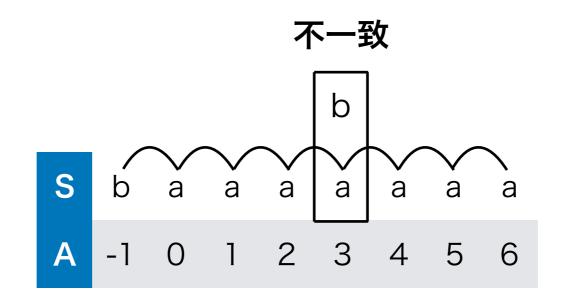
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



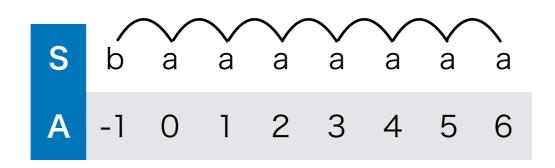
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、次に比較する場所に黒い線が伸びています



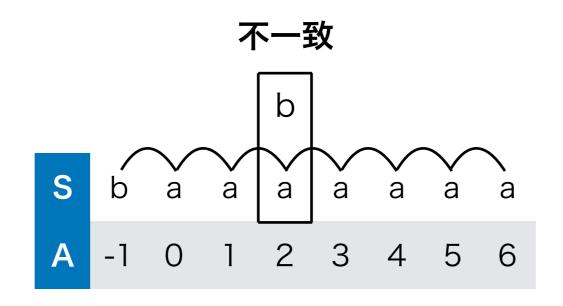
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



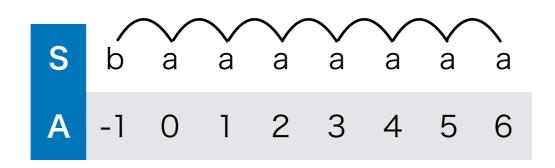
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、次に比較する場所に黒い線が伸びています



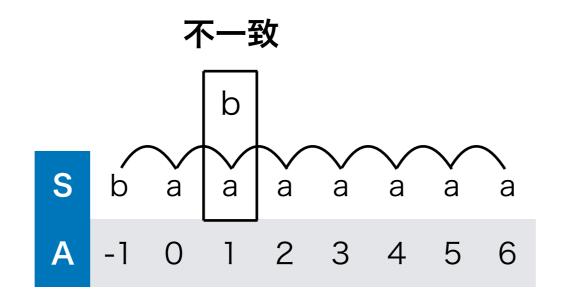
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



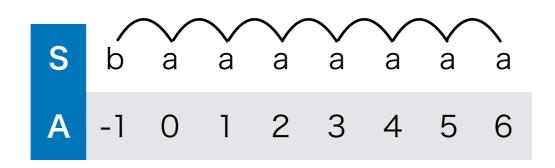
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



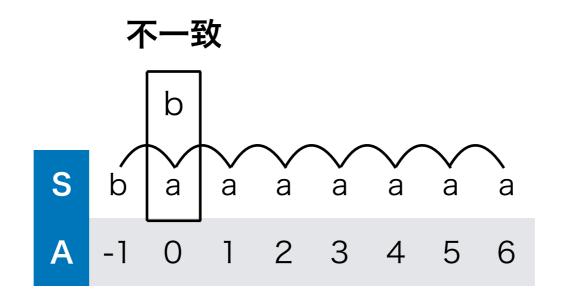
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



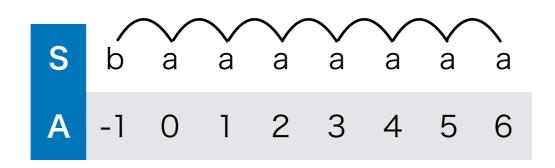
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、次に比較する場所に黒い線が伸びています



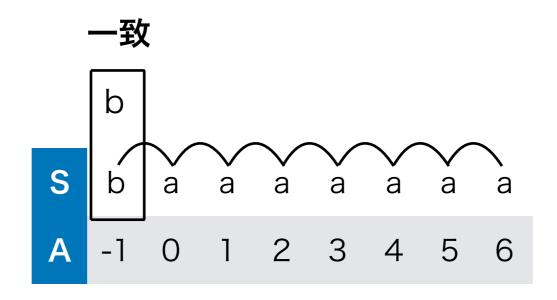
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



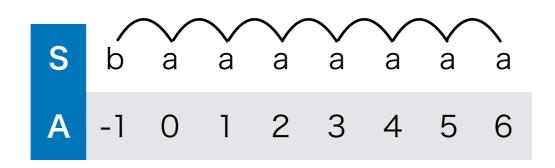
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



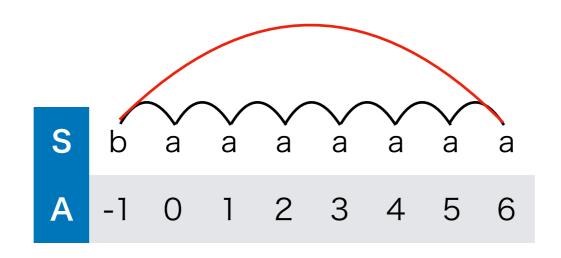
MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています



MP を用いた文字列検索で、i 文字目で不一致になった時、 次に比較する場所に黒い線が伸びています

ソースコード

```
vector<int> KMP(string S){
 int l = S.length();
 vector<int> A(l+1);
A[0] = -1;
 int j = -1;
 for(int i = 0; i < l; ++i){
   while(j >= 0 \& S[i] != S[j]) j = A[j];
   ++j;
   if(i < l \&\& S[i+1] == S[j]) A[i+1] = A[j];
   else A[i+1] = j;
 return A;
```

練習問題

- http://codeforces.com/contest/914/problem/F
- http://codeforces.com/contest/808/problem/G
- https://beta.atcoder.jp/contests/jag2018summer-day2/ tasks/jag2018summer_day2_h
- https://beta.atcoder.jp/contests/ukuku09/tasks/ ukuku09 d
- https://beta.atcoder.jp/contests/arc058/tasks/arc058_d